

Lecture 授業No.10 教科書P.25～

T.Q.「アレクサンドロスの意義と限界とは？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校
地歴公民科教諭

直前予習 T. A. キーワード確認

教科書 P.25・26

T.Q.「アレクサンドロスの意義と限界とは？」

1. フィリッポス2世
2. カイロネイア
3. 東方遠征
4. ギリシア
5. プトレマイオス

クリックで全て



今日の授業ラインナップ。

1. アレクサンドロスの東方遠征
2. ヘレニズム時代の意義と限界
3. ヘレニズム三国とローマの登場

⑤ ヘレニズム時代

T.Q.「アレクサンドロスの
意義と限界とは？」

教科書P.25～

...ギリシアを中心にして**東西世界が一体化**

(1) アレクサンドロス大王

__B.C.336、父王暗殺→マケドニア王に即位(20才) ※1

1 B.C.334～B.C.324、**東方遠征**

B.C.333 | **イツソスの戦い**→エジプト 征服 ※2

B.C.331 | アルベラの戦い

B.C.330 | **ダレイオス3世の死** ∴アケメネス朝(B.C.550～)

滅亡

2 中央アジア・西北インドまで支配

...各地に**アレクサンドリア**(市)建設 ※3

but 軍事力による支配のため不安定

☆ 意義...世界市民主義と万人同胞意識のめばえ

コスモポリタニズム なかま

cf. ギリシア語のコイナーが国際語に

1/2枚目のスライドはここまで!

☆ 意義...世界市民主義と万人同胞意識のめばえ

コスモポリタニズム なかま

cf. ギリシア語のコイナーが国際語に

—— ここから

(2) ヘレニズム三国...支配層がギリシア人の国

1 大王急死(33才) ∴ ディアドコイ戦争へ

2 B.C.301、イプソスの戦いでアレクサンドロス帝国三分裂

- プトレマイオス朝エジプト(～B.C.30) 都__アレクサンドリア
- セレウコス朝シリア(～B.C.1C) 都__アンティオキア
- アンティゴノス朝マケドニア(～B.C.2C) 都__ペラ

→全てローマに滅ぼされる ※4

...B.C.30、エジプトが滅び、ヘレニズム時代(300年間)終了

最後の女王クレオパトラはギリシア人 ※5

最後のスライドはここまで!

※T. A. まとめスライドへ

T.Q.「アレクサンドロスの意義と限界とは？」 教科書P.25～

※1

クリックで、
東西融合政策

描かれた
人物

アレクサンドロス大王 (前356～前323)



↑アレクサンドロス大王
イスタンブル国立博物館(トルコ)蔵

●少年時代

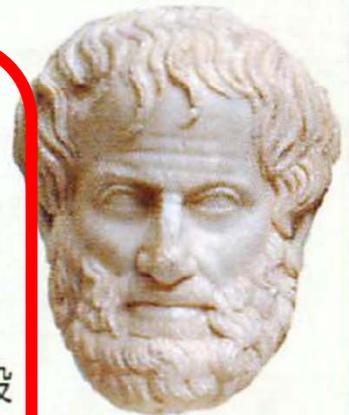
父であるマケドニア王フィリッポス2世は戦いに明け暮れていたため、アレクサンドロスの教育には母オリュピアスが大きく影響している。母は「ヘラクレスやアキレウスのような英雄になるように」と諭したといわれている。13～15歳の間、アリストテレスが家庭教師についたが、のちの行動・政策を見ると、アリストテレスの影響はあまり受けていないようである。

●東方遠征 (前334～前324)

父の暗殺により20歳で王位につき、22歳で東方遠征を開始。インダス川流域まで到達。前323年、アラビア遠征直前に病死。

●東西融合政策

- ・ 東方的専制君主政の採用
- ・ 集団結婚(マケドニア兵とペルシア女性)
- ・ 共通語(コイネー)
- ・ アレクサンドリア市の建設(約70)とギリシア人の入植



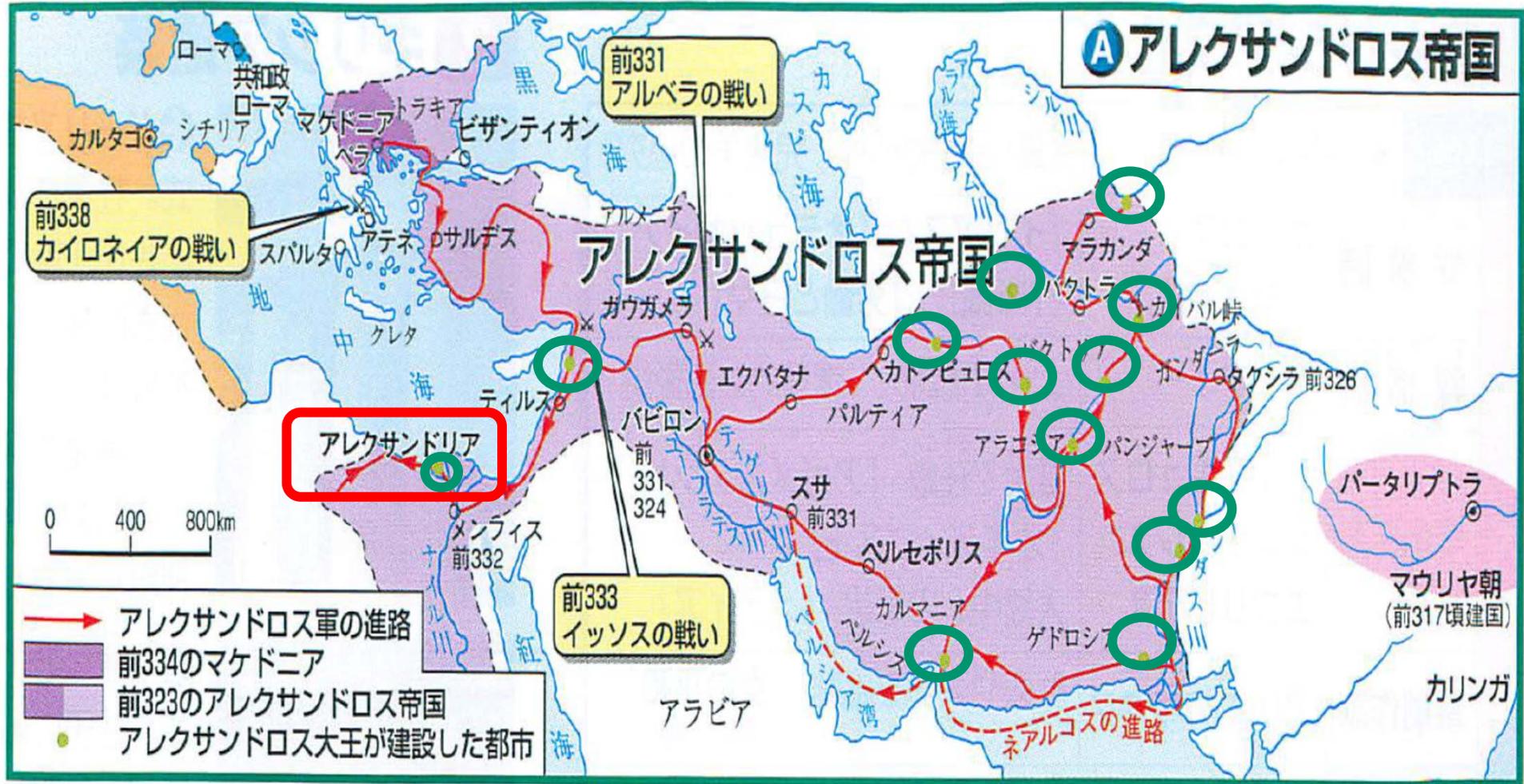
↑アリストテレス
(前384～前322)



クリック
①:
大王

クリック
②:
拡大

※
2



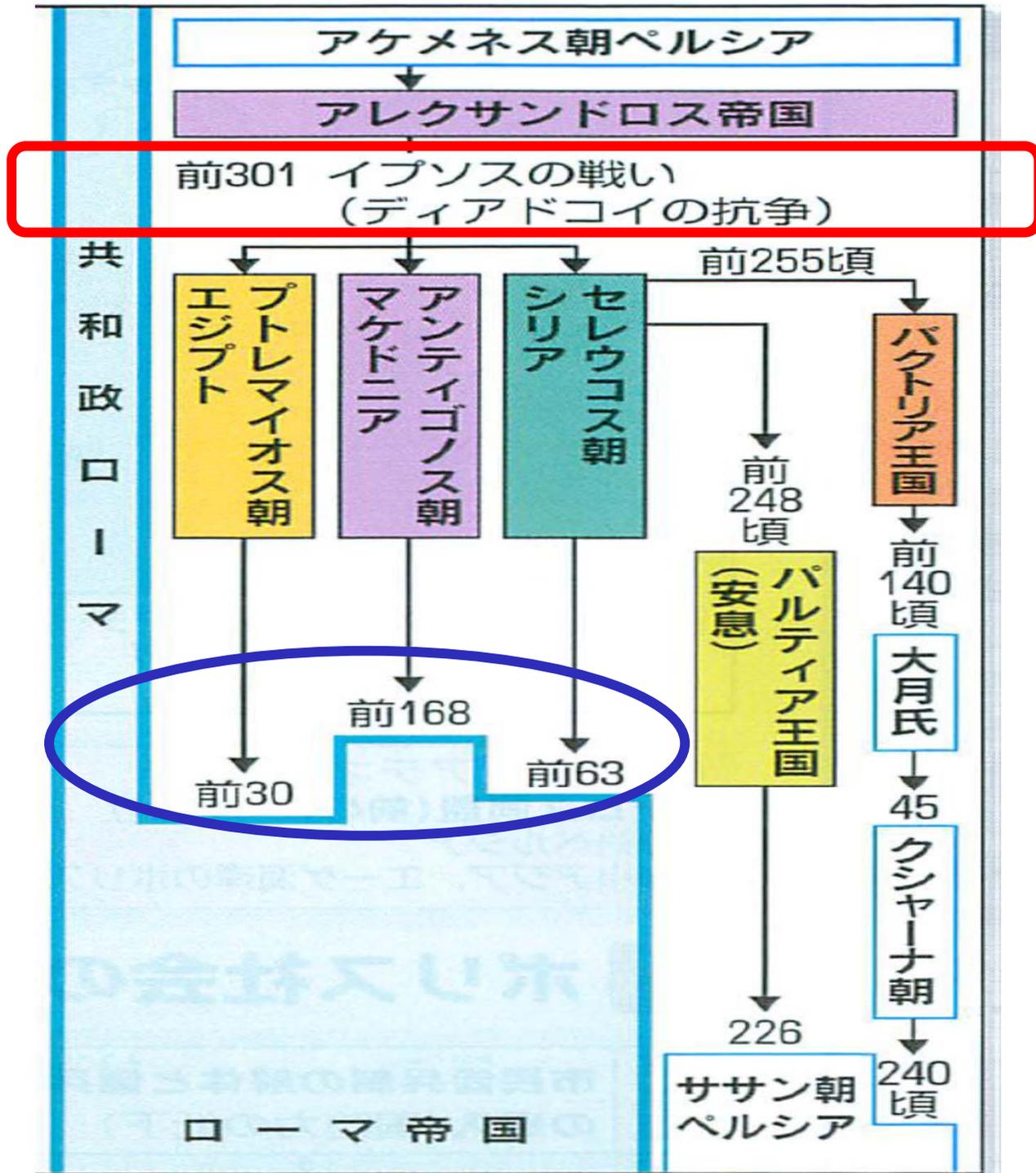
クリック①: 建設されたアレクサンドリア(市)

クリック②: 今、唯一存在するエジプトのアレクサンドリア(市)

※4

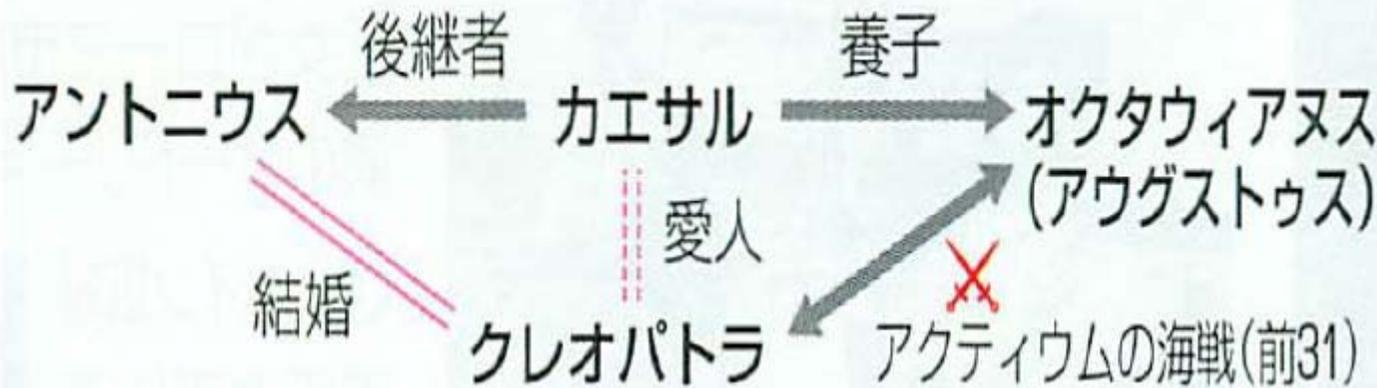
クリック①:
イプソスの戦い

クリック②:
ローマにより
滅亡



※5

クレオパトラ ほんろう -ローマ人を翻弄した女王-



クレオパトラは政治能力に長けた女性。カエサルの愛人となりエジプト統治を任され1子を得た。カエサルの死後、彼の部下アントニウスと結婚し3子を得た。アントニウスがカエサルの養子オクタウィアヌスにアクティウムの海戦で敗れた後、自殺した。

クリック①・②: 映画の中のクレオパトラ

世界史B 授業No.10

T.Q.「アレクサンドロスの意義と限界とは？」

アレクサンドロスの東方遠征は、万人同胞意識や世界市民主義(コスモポリタニズム)にもとづく、東西世界の融合を目標としたものであった。また国際語としてのコイナーや、ギリシア的な東西融合文明であるヘレニズム文化が形成されるなど、文化的に大きな意義もあった。しかしこの世界帝国は武力に頼るものであり、各地に建設したギリシア的な都市(アレクサンドリア)を中心にした拠点支配に過ぎなかった。そのため、世界市民(コスモポリタン)からなる世界国家という理想とは大きく外れたものになってしまった。